

社会福祉法人室蘭言泉学園広報

初めの一歩に

「元気」と「勇気」を

いずみ



写真：30周年を迎えた50kmあるかい？

社会福祉法人室蘭言泉学園の基本理念



- 人間の尊厳を支える組織として一人ひとりの人格を尊重し、その成長を支援します。
- 常に利用者本位の立場に立って、そのニーズに応えヒューマンサービスの質の向上に最善を尽くします。
- 地域社会の福祉の担い手として福祉課題を積極的に掘り起こし、それに取り組みます。
- 社会福祉法人として、多機能で選択肢があり継続的なサービスを提供できる経営を目指します。

コロナ禍での創造

理事長 菅野 登一郎

2020年度はコロナ禍で日本中が翻

弄された一年でありました。私どもの法人においても種々の計画が中止、変更、縮小を余儀なくされたところでした。今年度は昨年の経緯を経験値にし、新たな計画・手法の創造を強いられる一年となりそうです。

2019年度末からの新型コロナウイルス感染予防のひとつに3密対策がありました。結果、密閉、密集、密接への法人の取組みが業務の効率化を考えるきっかけになり、新たな活動を起こしています。

勤怠・財務システムを合一したことで、勤務態様の把握に大幅な時間の短縮が生まれました。UDトーク、要約筆記の導入は難聴、聴覚に障害のある職員への重要なコミュニケーション手段となり、合理的配慮への大きな手立てになっておりますし、web会議の導入は移動時間の解消と資料の集約化に効力を発揮しております。

他方、次年度

の事業方針を受

けた「アクションプラン2021」の

重点推進項目に「ICT（情報通信技術）の活用」を組み込みました。日常業務でのICTの活用を検討すること

で、業務の効率化を図りたいとの想いからでありました。

「ピンチをチャンスに」であります。

この業務効率化への取組みについては、コロナ禍で社会の有様が変わるなかで、新たな環境に気概を持って挑戦し、利用者の直接的な支援に傾注できる環境づくりの一助になること、そのことが支援の質と量を高めることにつながることを信じ、勇往邁進する所存です。

新たな年度も社会的養護を必要とする子ども達、障がいのある利用者の方へ大きく貢献する法人に成長するため、皆様の法人事業へのご尽力を心からご祈念申し上げます。



言 泉 学 園

重 大

ニ ュ ー ス

祝 30 周年！50kmあるくかい？

障がい児入所施設室蘭言泉学園 田中 晴菜

言泉学園の伝統行事「50kmあるくかい？」は、今年で30周年を迎えました。3日間で50kmを歩く、という毎年恒例の行事ですが、ここ数年は台風、地震の影響で中止が相次ぎました。言泉学園70周年を経て、数年ぶりの「あるくかい？」開催に意気込んでいたところに、新型コロナウイルスの到来。ギリギリまで実施が危ぶまれましたが、感染症対策を万全にしようとして、開催することが出来ました。

9月19日から21日の3日間、今回のコースは登別から苫小牧にかけての国道沿いでした。道端の草花を見たり海辺で食事をしたりと自然に触れ合いながら歩を進めることが出来ました。普通に生活して50km歩くという経験は滅多にないと思いますが、大変な道の中、一切弱音を吐くことなく懸命に歩く子ども達の姿は感慨深いものでした。来年もまた、無事に行事が開催されることを願っています。行事の開催にあたり、各事業所をはじめ多数の皆様方にご協力いただきました。本当にありがとうございました。



感染防止家屋を設置

児童養護施設わかすぎ学園 副施設長 神 裕子

道より、「社会福祉施設等感染防止対策事業補助金にて、感染症対策の徹底を図るよう」との通知があり、わかすぎ学園としても補助金を頂き、コロナ感染拡大予防のため個室化改築を計画いたしました。

補助金の範囲内で、子ども達の環境等の安全確保のために今ある本体の一部を改築し、個室化を図ろうかとも検討致しましたが、コロナウイルスの感染力が強く十分配慮してもどこから感染してしまうかわからない恐ろしさがあるため本体内部での改築ではなく、外部での個室化を行うことにより、少しでも感染のリスクを低く抑えられるのではないかと判断しわかすぎ学園の敷地内に家屋設置申請を道に提出し、改築認可を得られる事ができ3月15日頃完成予定で、現在建築中であります。

1LDKと「小さなお家」ですが、コロナ感染者のためにこのお家を使用する事が無いことを切実に願っており、終息の際は子ども達のために活用できるようにいろいろと夢を膨らませております。

また、この「小さなお家」は子ども達から募集して、「星空ホーム」とネーミングされました。



すまいるホーム開設

共同生活援助事業所「げんせん」 主幹 小松 美奈

令和2年4月より開設したどんぐりホームに併設型短期入所事業所「すまいる」が設置されました。今までは、いずみホーム内の短期入所事業所「ほほえみ」と障害児入所施設内の短期入所事業所「言泉学園」の2カ所で3名の受け入れを行っていましたが、「すまいる」が開設され3カ所で4名の受け入れが可能となりました。

「ほほえみ」は男性を対象に、「すまいる」は女性を対象に、グループホームという小規模な環境での受け入れとなります。「すまいる」は、利用する方の障害特性から外部刺激に敏感であったり、他者との交流を多く望まない場合でも過ごしやすいよう、居室から浴室脱衣場が繋がっていたりトイレに入るまでに他者と遭遇することがないつくりとなっています。

今年は新型コロナウイルスの影響や胆振管内での感染拡大等もあり、予約が入っていた家庭に利用自粛の協力をお願いしてしまうことも多々ありました。通常の受け入れが可能になった際には利用して良かったと思っただけのような支援を提供していきたいと思ひます。



数多くのご寄附、ありがとうございます。

本部事務局 事務局次長 池田 真人

毎年、当法人に数多くの団体、個人の皆様よりご寄附（寄附金、寄附物品）をいただいております。今年度を振り返りましても、飲料水、お米、野菜、衣類、電気スタンド、図書カード等々数多くのご寄附をいただきました。本当にありがとうございました。

また、今年は、新型コロナウイルスの影響をどこのご家庭、企業、団体でもたいへんなご苦労があったかと思ひます。昨年の春先はどこの店にいてもマスクが売り切れという現象がおきました。店の棚には、「当店のマスクは売り切れました。今後の入荷は未定です。」という張り紙が常に張ってありました。そんなマスク不足の中、手作りのマスクの寄附も数多くいただきました。

多くの皆様が寄附をしていただけたということ、イコール、多くの皆様が当法人を気にしていただき、かつ応援しているということになると思ひます。

今後とも、皆様の期待に応えられるよう、皆で努力していきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願いいたします。



たくさんの経験と思い出を

児童養護施設わかすぎ学園 副主任 豊岡 莉乃

今年はコロナ禍の影響で、今まで行ってきた行事が思うように出来ない年でしたが、子ども達と一緒に意見を出し合い楽しい行事を考え行いました。開園記念行事は『撮る？取り寄せる？フェス2020』をテーマに皆が撮った写真を見ながら焼きたてクレープや大きなピザを食べたり、自分の写真が何賞に選ばれるかドキドキしたり。秋行事では杉本ファームへ行き芋ほりを経験しました。普段見ることのない、出荷前の野菜の姿に感動の声もちらほら…皆が土まみれになりながら楽しみました。コロナだからではなく、コロナだからこそ普段出来ない事にチャレンジするいい機会だと思い、子ども達が楽しく健やかに充実した生活を築いていきたいと思っています。



新しい発見

小規模グループケア桜 主任 小山 可菜

今年度は、地球岬方面やみたらまでお散歩に行ったり、範囲や規模を縮小して行事をしたり、誕生日会は例年通りに実施をすることができましたが、コロナ禍で限られた条件の中で出来ることを楽しみました。



散歩中には「こんなところあったんだね！」と今まで気が付かなかった新たな発見がありました。また、冬休みの行事として実施したそり滑りや凧揚げなど、やってみたら案外楽しいと思えることが沢山ありました。

「当たり前」が変化することはストレスを伴いますが、悪い事ばかりではなかったなと思います。みんなが大きな病気をする事もなく、元気に過ごせたことが、何よりもうれしい一年でした。

外出自粛の中で

地域小規模児童養護施設楓 竹内 夕貴

今年度はコロナ感染防止対策として、様々な事に制限がかかり、子ども・職員共に我慢の多い一年でした。子ども達も自粛しなくてはならない時期と理解しつつも、例年通りに外での行事は行いたい気持ちは強く、あれしたい、どこに行きたい…等という事がしたいかおしゃべりに花を咲かせた事もありました。

そんな中、GWはゲーム大会、夏はBBQ、秋には子ども達と料理を作って芋パーティーと楓の中で行事を行いました。子ども達も積極的に参画してくれるので、とても助かっています。また、お手伝いや料理スキルが向上しており、日々の成長をかみしめています。

来年度も子ども達のニーズを大切にしつつ、寄り添った支援をしていきたいと思っています。



おいしい食事で楽しい行事を

言泉学園・わかすぎ学園 調理室 副主任 成田 大

調理では、言泉学園とわかすぎ学園で生活している約50名の子ども達に食事を提供しています。令和2年度は新型コロナウイルスの影響で楽しい行事が次々と中止になりました。

そんな中、感染対策を徹底して実施できた行事もあります。「クリスマス会」と「もちつき会」です。行事を1から見直して実行委員会で入念に打合せをして、コロナ対策のみならず一般衛生対策も強化しました。コロナ終息後も一部は継続したいと思っています。

楽しい行事に欠かせないものは、やはりおいしい食事です。子ども達が給食を通して楽しい思い出を作り、健やかに成長していく姿を見守りたいと思っています。



希望をもって

苫小牧養育センター鈴蘭 副主任 横山 佳世子

今年度はコロナウイルス感染症の影響で、行事の中止等様々な場面で制限があった1年でした。

子ども達は鈴蘭で過ごす時間が増える中、職員と一緒に食事作りをする機会が多かったように思います。最初は火の扱いにハラハラすることもありましたが、数回やると簡単なおかずなら作れるようになり「食べてね!」と出してくれたものは実に美味しかったです。

まだまだ生活に制限がある中ですが、「感染症が収まったら、買い物に友人との外出、鈴蘭の皆で夏季行事!」など色々やりたいことを考えているようです。我慢することも多い1年でしたが、来年度はそれぞれの希望が叶うような1年になればいいなと思います。



事

業

所

活

動

元気いっぱい子ども達

苫小牧養育センターはまなす センター長 磯山 恵美

今年度ははまなすは、コロナ感染症の為、例年よりも外出行事の機会が減り、子どもたちも残念な気持ちが大きかったと思います。

構成メンバーが幼児と小学生低学年がほとんどですので、いつも元気よく、にぎやかに過ごしており、施設内だけでは体も持て余してしまいます。



子どもたちの希望に合わせ、近所を散歩したり、公園などに行き遊ぶことが多くありました。夏には噴水のある公園や海浜公園などで水遊びをしたり、虫探しやシャボン玉などで遊ぶのが楽しかったようです。

最近は寒い日々が続いていますが、その中でも元気よく雪遊びなどをして過ごしています。

安心安全に生活できる場を 障がい児入所施設室蘭言泉学園 課長 佐々木 弘美

本来ならば、サマーキャンプや母恋神社祭など楽しい行事が待っていたはずの夏は自粛と休校の穴埋めで幕を閉じ、子どもたちには我慢の連続となった上半期でした。そのような中、工夫を凝らして「50kmあるかい?」と「登別満喫ツアー」、「冬の行楽会」では、弾けるような子ども達の笑顔と、生き生きした様子が見受けられました。

今年度の重点運営項目である、「子どもたちが安心安全に生活できる場であると感じられるような支援」は、未知のウイルスと闘う今こそ達成すべき課題であり、永遠のテーマともいうべき柱であると感じています。私たち職員も自分たちの支援を今一度振り返り、子どもたちに負けぬよう成長して行きたいと思っています。



コロナ禍でも工夫を凝らして

今年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点から次々と施設での行事が中止になってしまいました。その中で唯一12月末にあけぼの施設内にて『年末お楽しみ会』を開催することが出来ました。例年であれば、『忘年会』としてお店でご飯を食べながら大々的に行い、



利用者さんもおしゃれをして楽しみにしている行事だったので少し残念でした。とはいえ、感染予防をしつつ、ビンゴや手作りのDVDを視聴したり、工夫を凝らした楽しい内容に大笑いして楽しんでくれる利用者さんもたくさんいました。

いろいろ制限がある中で準備してお楽しみ会を開くことが出来、利用者さんの楽しそうな笑顔を見て励みになりました。

景色を眺める余裕を

花ファクトリーあけぼの 所長 穴戸 邦隆

コロナ禍で花苗の売り上げが減少する中、幸いにも今年度から望洋台霊園の草刈り業務を頂き、6月下旬から9月中旬の間、作業を行いました。以前から市内公園の草刈り作業を行っていたので、草を刈ること自体は慣れていたのですが、敷地が広大なので、「これ期限までに終わるのかな(汗)」「進んでいる感じがしない(汗)」など、不安に思う時もありました。そんな中でも作業合間の休憩時、晴れた日には眼下に室蘭港、白鳥大橋、その向こうに駒ヶ岳。良い気分転換になりました。利用者の皆さんや職員の頑張りと、忙しい中でも景色を眺める心の余裕が大切だと感じた夏でした。



日々、挑戦

就労継続支援B型事業所湘南しいたけ 所長 藤澤 憲将

今年度の湘南しいたけでは、コロナ禍ということもあり、毎年恒例の屋外での焼き肉や新年会を兼ねての鍋も行うことが出来ず、行事の類は一切行うことが出来ませんでした。

作業では、新たに乾燥しいたけの製造を本格的に開始しています。札幌からの依頼もあり、今までの手作業と自家製乾燥機から、大量の受注に応えられる専用の機械を導入しました。作業種が新たに増えて、利用者・職員共に手探りで試行錯誤を繰り返しました。当初は製品が安定せず、売り物にならないこともありましたが、現在は安定した製品を作れるようになっています。

今後は、生しいたけ・乾燥しいたけともに、新たな販売先を確保して、安定した経営に繋がれるようにしていきたいと考えています。



事業所活動

つづき

少人数でも充実した余暇活動を

共同生活援助事業所「げんせん」主任 菊地 真利

前年度グループホーム（以下よりGH）での全体行事が7件くらい（それ以外に多数）ありましたが、今年度はコロナ禍中で、極少人数で行事を行うという方針により、GH単位で行事を多く行いました。

年末年始についても全体行事としての恒例年越し会等は行えなかったため、各GHで職員が利用者から意見を聞き、工夫し計画を立てて少人数で買い物や、普段食べられないような豪華な料理を食され、充実して過ごすことができました。



とあるGHではタラバガニやらズワイガニがたくさんテーブルに並んだカニパーティーをおこなったという噂もあります。今後のコロナ状況はわかりませんが、より一層工夫された利用者の余暇活動に期待したいです。

雪かきレンジャーの一員に

本部事務局 高橋 美帆

私たちは普段、様々な方にご支援をいただいておりますが、私たちも地域の方に何か貢献したいと考えてボランティア育成や映画上映、資源活用の公益的事業を行っています。令和2年度は4つめの公益的事業として、室蘭市社会福祉協議会の「雪かきレンジャー」に参加させていただきました。お困りさんのお宅から依頼がくると、チームを組んで雪かきに向かいます。職員への募集ポスターを見て「私も雪かきしたい！」と手を挙げてくれた子ども達も雪かきレンジャーとして活動しています。



普段ボランティアに来ていただくことが多い私たちですが、地域に出向き交流する貴重な機会となっています。今年度の出番はもうなさそうですが、次年度以降も継続して取り組みたいと考えています。

コロナに負けるな！体を動かしてリフレッシュ

日中活動センターげんせん 副主任 篠原聖子

今年はコロナの影響で外出の機会が少なく、自粛も続き気持ちが落ち込むことが多い一年でした。行事も遠くまでの外出は難しく、行えるか悩むことが多々ありました。

生活介護では3エリアに分かれて日々の活動に取り組んでいますが、コロナ禍で外出がままならず運動不足…。活動センター内で何かしたいと考え、テレビにyoutubeをつなげて簡単な体操やダンスを取り入れました。これには利用者さんも大喜びで、音楽に合わせてノリノリで踊っています。また、普段は皆と関わらない利用者さんも音楽に合わせて体を動かす姿が見られます。体を動かして気持ちもリフレッシュされ、生き生きと過ごされる利用者さんに職員も元気をもらっている毎日です。

来年はコロナが落ち着き外出が出来るようになるといいなと思います。



相談支援室から

室蘭市障がい者総合相談支援室「げんせん」

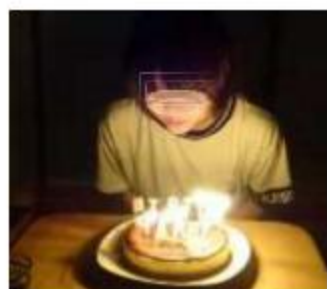
室長 天野 豊平

当室は主に室蘭市にお住まいの方々からの「就労」や「住まい」、「対人関係」などジャンル・内容ともに多岐にわたるご相談を年間およそ8000件ほど頂いており、市内各所の関係機関の皆様と協同し、支援にあたっているところです。

委託事業である「障がい者理解促進事業」については、コロナウイルス感染拡大予防の観点から各種イベントが実施することが出来ず、これまでとは違った形「写真パネル展」を開催しました。

次年度以降「障がい者理解促進事業」のイベント・研修会などの際は、ぜひご参加いただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。





日中活動センターのご用命は ☎ (0143-23-0520) 📞

ご厚志に感謝！

寄附者一覧

(令和2年3月～令和3年2月)

《団体》 (敬省略)

AirDrive、MCM のめぐみ(株)、(株)Wads、
(有)アクト警備オフィス (株)カーブスイ
オン登別、菓子工房モンパリー、NPO 法人ク
ロスクイズ、生活協同組合コープさっぽ
ろ、コカ・コーラボトリング(株)、佐川急
便(株)、(株)SAKURA、(株)ジェイ・スト
ーム、(株)住宅夢工房、勝光寺、(株)セコ
マ広報部、(株)セブンイレブン、全国シャ
ンメリー協会、大安寺、(株)たかくら新産
業、(有)ダスカジャパンクアウテモック、
伊達直人、チビッコ未来文庫、戸田建設
(株)札幌支店、苫小牧マーガレット幼稚
園、鶏笑登別店、日本鏡餅組合、日本出版
販売(株)、(一財)日本児童養護施設財団、
日本ボーイスカウト、(有)信田印刷、パー
ラービクトリア室蘭店、パタゴニアアウ
トレット札幌南、(有)花のながはら、広尾
町サンタランド係、ぴんくのぱんだ、フー
ドバンクいぶり、ファインクリスタル
(株)、藤川建設(株)、(株)フレーベル館
出版本部、(株)ホクビー、母恋南町町会、
南町町会婦人会、ほっともつと事業本部北
海道、(株)ホリ、(公財)毎日新聞東京社
会事業団、(一財)みらいこども財団、ミル
クランド北海道事務局、室蘭市給食セン
ター、(株)むろらん東郷、室蘭東ライオン
ズクラブ、屋久島東部茶生産組合、よはく
舎、蘭北山本光寺、(株)ワイティーエス

《個人》 (敬省略)

石川英仁、市川諭、内田仁、大原妙、小原
ゆう子、熊澤正江、栗林呂名、桜井知年、
佐藤弘明、佐藤泰子、佐藤義則、鈴木菊美、
高畑由美子、竹内典出、武田美帆、中村り
さ、西谷沙菜、野原洋子、畠山修、林弥生、
廣部智範、堀内道子、三浦町子、宮田芳子、
村田雅人、茂木洋子、森秋子、森正美、八
木橋紀子、山縣次朗、山下真優美、米倉潤

令和3年度
社会福祉法人室蘭言泉学園カレンダー○辞令交付式
○みらいホーム開設○春季行楽行事
○定時評議員会○夏季行楽行事
○日活まつり(日活)○ハロウィーン行事
○各種中間報告○クリスマス会
○忘年・もちつき会○節分行事
○冬季行楽行事

4月



6月



8月



10月



12月



2月

○法人事業貢献表彰
○定時理事会○サマーキャンプ
○50kmあるくかい?○母恋神社祭典参加
○おろげんまつり○秋季行楽行事
○永年勤続表彰式○成人式
○新年会○退園式
○各種報告

5月



7月



9月



11月



1月



3月

広報いずみ

2021年3月25日発行

発行人 社会福祉法人 室蘭言泉学園
住所 〒051-0004
室蘭市母恋北町1丁目4番2号
電話・FAX 0143-50-6720
HP <http://www5.plala.or.jp/gensen>

今年度は言泉学園・わかすぎ学園・楓から合計5名の子ども達が卒園します。きつと新しい生活に期待も不安もあるでしょう。変化の激しい世の中ですが、若い力で柔軟に対応して活躍してくれると信じています。(た)

今年度、法人では恒例行事のほとんどが感染予防・密対策で中止となりました。そのような状況下でも、年度後半にはコロナ対策を含んだ形で行事を企画することができました。「子ども達や利用者の方が安心して楽しめるように。」その想いは各事業所の記事からも感じ取っていただけたと思います。

編集後記